

日本離婚・再婚家族と 子ども研究学会 第8回大会プログラム

The 8th Annual Conference Program of

the Japanese Association for Research on Children of Divorced Families and Stepfamilies

テーマ：ステップファミリーと日本社会の家族観

2025 年 9 月 27 日(土)・28 日(日)
大正大学巣鴨キャンパス

日本離婚・再婚家族と子ども研究学会

大会概要

＜大会メインテーマ及びシンポジウムのコンセプト等について＞

21 世紀の幕開けとともに始まった日本のステップファミリーの研究・支援実践の歴史は、ほぼ四半世紀になります。日本でも「ステップファミリー」という概念が少しずつ普及していますが、家族形成過程や関係構造の独自性は理解されにくい状況が続いています。そこで、今大会では、親の新たなパートナー（継親）との関係をもつ子どものいる家族、「ステップファミリー」に焦点を定めて議論してみたいと考えました。日本のステップファミリー研究は何を明らかにしてきたか、研究から支援実践に資するどのような示唆が得られるか、ステップファミリーの支援ニーズと日本社会の家族観・家族制度にはどのような関連があるのか、といった一連の問いをめぐって議論する場を設定します。

シンポジストとして、直原康光氏（司法心理学・発達精神病理学）、菊地真理氏（家族社会学・家族関係学）、ローツ マイア氏（家族法）の 3 人の研究者をお招きし、ご報告いただきます。異なる角度から、現在の日本のステップファミリーを、学際的・立体的に論じる 3 つの報告を受けて、ステップファミリー支援団体（SAJ）代表、緒倉珠巳氏（公認心理師・臨床心理士）にコメンテーターとしてご発言いただきます。

それに先立つ基調講演には、研究・実践の蓄積が厚いアメリカで、長年にわたりステップファミリー研究を多角的に展開してきたローレンス・ギャノン氏をお招きします（過去に 2 度の来日講演経験あり）。ステップファミリーの肯定的な側面をいかに引き出すかに着目して膨大な先行研究から実践的知恵を析出した、最新の「ステップファミリーでうまくいくこと」プロジェクトの成果をご紹介します。

多くの皆様のご参加を歓迎いたします。

日本離婚・再婚家族と子ども研究学会
企画委員会

第8回大会開催にあたってのごあいさつ

この度、2025年9月27日(土)・28日(日)の二日間にわたり、東京都豊島区西巣鴨に所在する大正大学を会場として、日本離婚・再婚家族と子ども研究学会 第8回大会を開催する運びとなりました。大会実行委員長として、謹んでご挨拶申し上げます。

振り返りますと、本学会設立の前年に開催された「離婚・再婚家族と子ども研究会」の学術研究集会——いわば本学会の第0回大会——の会場が、大正大学でした。その後、会員数も増え、順調に発展を遂げてきた日本離婚・再婚家族と子ども研究学会の大会を、再び大正大学で開催できますことを大変うれしく思っております。

さて、本大会のテーマは「ステップファミリーと日本社会の家族観」です。ステップファミリーは、もはや特別な家族形態ではありません。しかしながら、その多様な実態や、ステップファミリーが直面する固有の課題、そしてそれを支える社会的支援のあり方については、いまだ十分に認知され、議論が深まっているとは言い難い状況です。また、ステップファミリーという存在は、私たちが無意識のうちに前提としている「家族とはこうあるべき」という家族観そのものを問い直す契機にもなり得ます。

そこで、大会の初日には、ステップファミリー研究の世界的権威であるローレンス・ギャノン (Lawrence Ganong) 先生に、「ステップファミリーがうまくいくためには 一家族に関わる専門職への提言」と題した一般公開の基調講演を行っていただきます。ギャノン先生は、長年の研究の集大成ともいえる新著『What Works in Stepfamilies: Creating and Maintaining Satisfying and Effective Relationships』を最近出版されました。この基調講演は、豊富な研究成果に基づいた貴重な知見に触れる、またとない機会となることでしょう。

基調講演に続いて行われる大会シンポジウム「ステップファミリーと日本社会の家族観」には、直原康光氏 (大阪大学)、菊地真理氏 (大阪産業大学)、ローツ・マイア氏 (東北大学) をシンポジストに、緒倉珠巳氏 (ステップファミリー・アソシエーション・オブ・ジャパン) をコメンテーターにお迎えし、野沢慎司氏 (明治学院大学) と原田綾子氏 (名古屋大学) にオーガナイザー兼司会進行をご担当いただく予定です。本シンポジウムでは、ステップファミリーの現状と課題、支援のあり方について、最新の研究成果や学術的知見を共有するとともに、ステップファミリーを通して現代日本社会の家族観の変容や多様性について、学際的な視点から深く考察する機会としたいと考えております。

このほかにも、会員の皆様による研究発表やラウンドテーブルなどによって、参加者同士が活発に知見を交換し、相互に学びを深められる場を提供できるよう、準備を進めております。

ところで、大正大学の構内には、聖観世音菩薩（しょうかんぜおんぼさつ：観音さま）を安置した「すがも鴨台観音堂（鴨台さざえ堂）」がございます。すがも鴨台観音堂は、回廊の往路と復路が交わらない八角・三匝（さんそう）の珍しい階堂で、二重らせん構造になっており、巻貝のさざえに似ていることから、「さざえ堂」の愛称で呼ばれています。観音さまは、あらゆる人々の苦しみを取り除き、願いを叶える現世利益の菩薩として広く信仰を集めていますが、「さざえ堂」を拝観すると、思いがけないご利益に恵まれると大変評判です。

参拝の回廊には、フランス人の調香師クリストフ・ロダミエル氏が調香した、えもいわれぬ素晴らしいお香が焚かれています。その香りに包まれるだけで、普段忘れがちな繊細な感性が呼び覚まされますので、私は折に触れて拝観しています。また、観音さまの背景には、日本画の大家である千住博画伯が描いた「滝」の壁画が掛けられており、眺めているだけで瞑想的な意識状態にいざなわれます。どなたでも拝観いただけますので、大会にご参加の際は、ぜひ足を運んでみてください。

実りの秋、参加者の皆様が研究交流や情報交換を通じて互いに刺激し合い、実り多い時間をお過ごしいただけるよう、実行委員一同、鋭意準備を進めております。第8回大会にて、多くの皆様とお目にかかれることを、心より楽しみにしております。

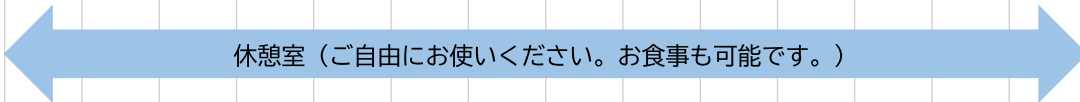
日本離婚・再婚家族と子ども研究学会
第8回大会実行委員長 青木 聡（大正大学）

目次

大会スケジュール	6
大会会場 アクセスのご案内	7
大会に参加される方へのご案内	9
研究発表、ラウンドテーブル企画者の方へのご案内	11
基調講演	12
大会シンポジウム	14
会員企画ラウンドテーブル I	17
研究発表	18
会員企画ラウンドテーブル II	20

大会スケジュール

大会1日目 9月27日(土)

	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00				
5 5 2 教室	10:00-11:30 基調講演（一般公開） ステップファミリーがうまくいくためには 一 家族に関わる専門職への提言ー ローレンス・ギャノン氏			13:00-16:20 大会企画シンポジウム（一般公開） <table><tr><td>ステップファミリーにおける親と子の適応 直原康光 氏</td><td>ステップファミリーにおける「効果的な共同養育」とは 菊地真理 氏</td><td>ステップファミリーに関わる法律制度と家族観 ローツ マイア氏</td><td>ディスカッション</td></tr></table>				ステップファミリーにおける親と子の適応 直原康光 氏	ステップファミリーにおける「効果的な共同養育」とは 菊地真理 氏	ステップファミリーに関わる法律制度と家族観 ローツ マイア氏	ディスカッション	16:30-17:00 年次総会
ステップファミリーにおける親と子の適応 直原康光 氏	ステップファミリーにおける「効果的な共同養育」とは 菊地真理 氏	ステップファミリーに関わる法律制度と家族観 ローツ マイア氏	ディスカッション									
5 5 3 教室	 休憩室（ご自由にお使いください。お食事も可能です。）											

大会2日目 9月28日(日)

	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00					
5 5 2 教室	10:00-11:30 会員企画ラウンドテーブルⅠ 事例検討ー変わり続ける家族関係を踏まえた、ステップファミリーの親子交流支援と心理支援のあり方を考えるー			12:30-14:40 研究発表 <table><tr><td>ステップファミリーにおける面会交流</td><td>子どもにとってのステップファミリー：親との離死別と小児期逆境体験の視点から</td><td>家族内で暴力がある事例における離別後の親子関係に関する検討</td><td>親の離婚について語ることー青年期向けFAITプログラムの実践からー</td></tr></table>			ステップファミリーにおける面会交流	子どもにとってのステップファミリー：親との離死別と小児期逆境体験の視点から	家族内で暴力がある事例における離別後の親子関係に関する検討	親の離婚について語ることー青年期向けFAITプログラムの実践からー	15:00-16:30 会員企画ラウンドテーブルⅡ 高葛藤（high conflict）離婚事例への支援・介入プログラムの適用可能性に関する検討③		
ステップファミリーにおける面会交流	子どもにとってのステップファミリー：親との離死別と小児期逆境体験の視点から	家族内で暴力がある事例における離別後の親子関係に関する検討	親の離婚について語ることー青年期向けFAITプログラムの実践からー										
5 5 3 教室	休憩室（ご自由にお使いください。お食事も可能です。）			研究発表 <table><tr><td>共同監護を原則とする米州法を適用した国内事例からの気づき</td><td>親の別居・離婚を経験する子どもへのインタビューの報告</td><td>父母の紛争における「子どもの手続代理人」の支援プロセスに関する質的調査研究</td><td>離婚後の子育てアプリ（ラエル）の紹介と家裁実務における活用可能性</td></tr></table>			共同監護を原則とする米州法を適用した国内事例からの気づき	親の別居・離婚を経験する子どもへのインタビューの報告	父母の紛争における「子どもの手続代理人」の支援プロセスに関する質的調査研究	離婚後の子育てアプリ（ラエル）の紹介と家裁実務における活用可能性	休憩室		
共同監護を原則とする米州法を適用した国内事例からの気づき	親の別居・離婚を経験する子どもへのインタビューの報告	父母の紛争における「子どもの手続代理人」の支援プロセスに関する質的調査研究	離婚後の子育てアプリ（ラエル）の紹介と家裁実務における活用可能性										

大会会場 アクセスのご案内

会場

場所：大正大学 5号館 5階

(〒170-8470 東京都豊島区西巣鴨3-20-1)

※キャンパスまでの交通アクセス方法は、大会ホームページの「アクセス」に詳細がございます。

以下のURL または QR コードよりご確認ください。

URL : https://2025.jarcds.org/access_map/



東京駅から (約 30 分)

東京 (山手線 上野方面行) → 巣鴨 (都営三田線 乗換 西高島平行) → 西巣鴨 A3 出口

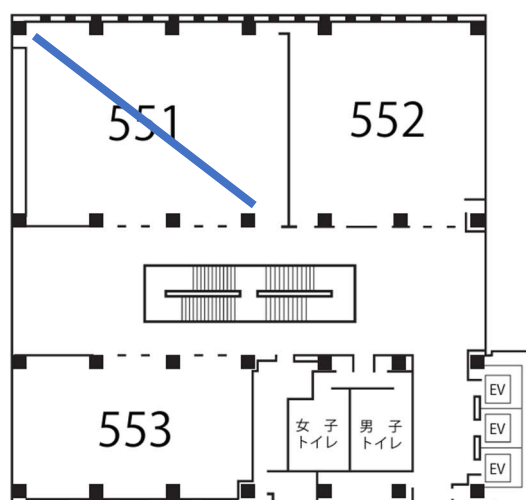
羽田空港から (約 60 分)

羽田空港 (東京モノレール) → 浜松町 (山手線 乗換) → 巣鴨 (都営三田線 乗換) → 西巣鴨 A3 出口

・キャンパスマップ



・5号館 5階 案内図



注意

- ・会場は大正大学 5 号館 5 階です。最寄り駅は、都営三田線 西巣鴨（徒歩 2 分）になります。
- ・大学正門を入り、正面に見える図書館に向かって直進し、図書館の右側に 5 号館があります。
- ・5 号館のエレベーターで 5 階にあがり、受付にお越しください。
- ・551 教室は大会で使用しません。552 教室と 553 教室が会場です。
- ・553 教室は、二日目の研究発表の時間帯（12:30-14:40）以外は終日開放いたしますので、昼食休憩などご自由にお使いください。論文の抜き刷り、ご所属団体のチラシやパンフレットなどを置いていただくことも可能です。各種情報交流スペースとしてご活用ください。
- ・大正大学は eduroam（大学等教育研究機関の間でキャンパス無線 LAN の相互利用を実現するためのサービス）に参加しています。大学に所属している方は、ご自分の大学の ID とパスワードで無線 LAN に接続できます。
- ・学会当日の昼食について、9 月 27 日・28 日の両日とも、お弁当の販売はいたしませんのでご注意ください。なお、大学周辺で複数のコンビニエンス・ストアが営業しています。

大会に参加される方へのご案内

1. 開催形態 | 対面

基本的に対面で開催します。基調講演および大会シンポジウムのみ、後日オンデマンド視聴（期間：10/6～10/31）が可能です。

※ギャノン教授の講演は、あらかじめ録画をした講演のビデオを会場で上映する形で行います。基調講演の質疑応答は、アメリカと会場（大正大学）をオンラインでつなぎ、同時双方向の形で実施します。基調講演および大会シンポジウムは、当日のリアルタイムでのオンライン配信は行いませんので、ご注意ください。後日、オンデマンド視聴用に録画を配信します。

2. 受付（会場参加の方）

5 階ロビーの受付窓口で受付を済ませ、参加証を受け取ってください。（大会期間中は、参加証をおつけください。）

3. 大会本部

場所：5 階ロビー受付 ※何かお困りの際はお越しく下さい。

4. 懇親会（会員のみ）

開始時間：9 月 27 日（土）大会 1 日目 17：30～（予定）

場所：鴨台食堂（大正大学 5 号館 8 階）

参加費：6,000 円

※懇親会への参加方法

大会への参加申込をされる際に、会員の方に対して、参加を予定されているかどうかを質問しています。懇親会参加の最終的な確認については、大会へ参加される会員の皆様に対して、大会の約 2 週間前（9 月 13 日（土）頃）に参加の有無を伺うご連絡をさせていただきます。事前申込みが必要で、当日参加はできませんので、ご了承ください。

5. 年次総会

日時 | 大会 1 日目（9 月 27 日（日））16：30－17：00

場所 | 552 教室

学会に対する会員の皆さまの期待やご意見をお聞かせください。

6. 非会員の参加について（基調講演とシンポジウムのみ）

基調講演、大会シンポジウムのみ、非会員の一般の方も参加できます。なお、基調講演の質疑応答と大会シンポジウムの討論部分はオブザーバーとしての傍聴のみとなります。

7. 参加にあたって厳守していただきたいこと

参加申し込み時に、すべての企画についての守秘義務および、録音・録画・写真撮影を行わないことに同意していただいておりますので、その旨ご了承ください。また、SNS 等において、発表内容や質疑応答時の発言等を書き込むことはご遠慮ください。配布資料のアップロード等もお控えください。

8. 書籍販売ブースについて

5 階ロビーのスペースで書籍販売を行っております。また、大会プログラムの巻末に出版社様の広告を掲載させていただいております。ぜひ御覧ください。

9. お問い合わせ

- ・会場や大会全般に関するお問い合わせ 第 8 回大会事務局へ 2025office@jarcds.org
- ・入会等に関するお問い合わせ 学会事務局へ info@jarcds.org

研究発表、ラウンドテーブル企画者の方へのご案内

1. 【必須】発表者の方へ

研究発表（口頭）を行う会員や会員企画ラウンドテーブル企画者は、事前に大会ホームページに掲載されている「発表を予定されている方へ」のページをご一読ください。確認事項等が改訂される可能性がありますので、ホームページで最新バージョンをチェックしてください。

2. 【必須】発表時に使用するスライドや資料について

研究発表（口頭）を行う会員や会員企画ラウンドテーブル企画者は、発表データを USB メモリ等のメディアあるいはノートパソコンに保存してご持参ください。会場には Windows11, Microsoft 365 (office) がインストールされたデスクトップパソコンが設置されています。デスクトップパソコンで USB メモリを使用するか、持ち込んだノートパソコンで発表の操作をお願いします。なお、USB 端子は type-A となります。また、Mac を使用する場合は、変換プラグもご持参ください。

3. （任意）配布資料について

研究発表（口頭）を行う会員や会員企画ラウンドテーブル企画者で事前に配布したい資料等がある場合は、9月19日（金）までに、大会事務局（2025office@jarcds.org）に提出（添付ファイル送信）してください。大会に参加申込みをした人のみが資料をダウンロードできるように、クラウド上にアップロードします。大会実行委員会・企画委員会は、プリントや対面会場での配布などをしませんので、ご注意ください（発表者自身が会場等で配布するのは任意です）。

4. ご注意

- 資料の作成や当日の発表にあたって、第三者の権利や利益を侵害することがないよう、著作権等に関して十分に配慮してください（学会におけるオンライン発表は自動公衆送信による再送信とみなされます）。
- 定刻になり次第、速やかにセッションを終了いただきますよう、ご協力をお願いします。

基調講演

Keynote Speech

9月27日 10:00–11:00 (質疑応答 11:00–11:30) 会場 552教室 (後日オンデマンド配信)

What Works in Stepfamilies: Suggestions for Family Professionals

ステップファミリーがうまくいくためには－家族に関わる専門職への提言－

講演者 | Lawrence Ganong

(Emeritus Professor, University of Missouri, USA)

ローレンス・ギャノン (米国・ミズーリ大学名誉教授)

司会 | 野沢慎司 (明治学院大学)

通訳者 (質疑応答) | 大西真美 (杏林大学)



この講演では、ステップファミリーのメンバーたちが、個人レベルと家族関係レベルの両方においてよりよい状態を作り出すために、どんな行動を取ったのかを調査した 269 の研究をレビューし、そこから明らかになった知見の一部を厳選して取り上げる (Ganong et al., 2025)。まず、再婚した個人がどのような行動をとるかに関する研究からの知見を紹介し、それに続いてステップファミリーにおける生物学的親にとってうまくいくやり方についての知見をいくつか紹介し、最後に継親にとってうまくいくやり方に関する研究からの重要な知見をお話する。カップルとして問題を解決する能力に自信があり、再婚が長続きするだろうと楽観的見通しを持つ人は、より満足度の高いパートナー関係を築いていた。満足度の高い再婚カップル関係にある人は、過去のカップル関係の経験に基づき、自分にとって何がうまくいき、何がうまくいかなかったかを学んだ人々である。彼／彼女らはその教訓を活かして、問題解決に取り組み、明確なコミュニケーションを図り、過去のカップル関係についてもオープンであり、前向きなコミュニケーションの取り方を実践し、パートナーの心配事にも共感的であることによって、より満足度の高い再婚カップル関係を築いていた。満足度の高いカップルは、自分たち相互の関係をきちんと守り、それをしっかり育てている。効果的な親たちは、親密な親子の絆を維持し、子どもとのコミュニケーションにおいて適切な境界線を確認し、親として子どものコントロールを適切に行い、継親子関係がうまく発達するように支援している。継親にとっての主要な課題は、継子と良好な情緒的絆を築き、それを維持することである。最後に、ステップファミリーを支援する専門家が、これらの知見からどのような知恵を得られるのかについて論じる。

【文献】

Ganong, L., Coleman, M., & Sanner, C. (2025). *What Works in Stepfamilies: Creating and Maintaining Satisfying and Effective Relationships*. Routledge.

★ギャノン教授の講演は、あらかじめ録画をした講演のビデオを会場で上映する形で行います (日本語訳資料を配付予定)。質疑応答は、アメリカと会場 (大正大学) をオンラインでつなぎ、同時双方向の形で実施します (逐語通訳つき)。講演は、当日のリアルタイムでのオンライン配信は行いませんので、ご注意ください。後日オンデマンドで配信します。

This speech contains selected findings from a review of 269 studies about what stepfamily members do to enhance individual and relational well-being (Ganong et al., 2025). First, I present findings about what remarried individuals do, then I mention some behaviors that work for biological parents in stepfamilies, and then I share important findings about what works for stepparents. Individuals who were confident in their abilities to resolve problems as a couple and who were optimistic that their remarriage would last, had more satisfying partnerships. Individuals in satisfying remarriages have learned from their past romantic relationships what did and what did not work for them. They applied their learning to create more satisfying remarriage relationships by engaging in problem-solving, communicating clearly, being open about past relationships, communicating in positive ways, and being empathetic to partners' concerns. Satisfied couples protect and nurture their relationships. Effective parents: maintain close parent-child bonds, establish appropriate communication boundaries with children, exercise parental control, and support stepparent-stepchild relationships. The major task for stepparents is to build and maintain a positive emotional bond with stepchildren. Implications for professionals who work with stepfamilies are discussed.

大会シンポジウム

9月27日 13:00-16:20 会場 552教室（後日オンデマンド配信）

ステップファミリーと日本社会の家族観

シンポジスト | 直原康光（大阪大学）「ステップファミリーにおける親と子の適応ー心理学・社会的な観点からの国内の研究を踏まえてー」

シンポジスト | 菊地真理（大阪産業大学）「ステップファミリーにおける「効果的な共同養育」とはー成人継子インタビュー調査からの示唆ー」

シンポジスト | ローツ マイア（東北大学）「ステップファミリーに関わる法制度と家族観ーカナダと日本の比較検討ー」

コメンテーター | 緒倉珠巳（SAJ ステップファミリー・アソシエーション・オブ・ジャパン）
司 会 | 野沢慎司（明治学院大学）、原田綾子（名古屋大学）

【企画趣旨】

現代日本社会において、親の新たなパートナー（継親）との関係をもつ子どものいる家族は決して稀な存在ではありません。しかし、「ステップファミリー（stepfamilies）」という概念が広く普及したとは言えない状況が続いています。その家族形成過程や関係構造の独自性は、本学会内においてさえ、今もなお十分に理解されていないように思われます。ステップファミリーは、カップルの離別・死別に続く再婚／パートナーシップ再編という一連のトランジションを経て生み出される家族です。民法改正によって離婚・再婚後の家族を取り巻く社会状況が大きく変動する可能性がある今、ステップファミリーに焦点をあてる社会的意義は大きいと考えます。

本シンポジウムでは、まず、ステップファミリーの子どもたちとその親や継親の経験について、またステップファミリーに関わる社会制度について、最新の研究からの知見を共有いただきます。その上で、支援実践に資するどのような示唆が得られるかという（ローレンス・ギャノン氏の基調講演にリンクする）問いに進み、さらに日本のステップファミリーの現状と日本社会の家族観との関連にまで議論を進めることを目指します。

学際性の高い本学会の強みを活かし、会員の中から3人のシンポジストおよび1人のコメンテーターをお招きしました。心理学の分野で主に数量データ分析を駆使して新たな研究を展開する直原康光氏、家族社会学・家族関係学の視角から質的インタビュー調査などを継続してきた菊地真理氏、家族法の領域で他国の法制度との比較から日本の制度の課題に切り込んでいるローツ マイア氏の3氏です。3つの報告を受けて、25年近くにわたり支援活動が続けるステップファミリー支援団体（SAJ）の代表、緒倉珠巳氏（公認心理師・臨床心理士）にコメンテーターとしてご発言いただきます。登壇者それぞれの異なる角度から、現在の日本のステップファミリーを学際的・国際的に論じていただき、フロアからのご質問やご意見も取り入れつつ、立体的な議論が展開することを期待しています。

★大会シンポジウムは会場で開催します。当日のリアルタイムでのオンライン配信は 行いませんのでご注意ください。後日オンデマンドで配信します。

ステップファミリーにおける親と子の適応
ー心理学・社会学的な観点からの国内の研究を踏まえてー

直原康光（大阪大学）

13:10～13:50

【報告要旨】

本報告では、心理学・社会学的な観点から、ステップファミリーを対象として行われた国内の実証研究を概観した上で、カップル（親）の立場、子どもの立場、それぞれに焦点をあて、どのような信念、関わりや関係性などが、親・子にとって適応的なのかを明らかにしつつ、海外の知見とも比較しながら、共通点と相違点を考察する。その上で、支援における留意点や今後の研究の必要性についても言及したい。

ステップファミリーにおける「効果的な共同養育」とは
ー成人継子インタビュー調査からの示唆ー

菊地真理（大阪産業大学）

13:50～14:30

【報告要旨】

改正民法に明示された「親」の責務と選択的共同親権の導入は、親の離婚・再婚後のステップファミリーにおいても、父母とその新たなパートナー（継親）が子どもの共同養育者として関わりを持続けることを示唆する。しかし、かような社会制度の転換期にあっても、離婚・再婚後の家族観に大きな変化が生じているとは言えない（野沢・菊地、2021）。

本報告では、「規範的・適応的（normative-adaptive）アプローチ」（Ganong et al, 2025）の観点から、親の離婚後も父母との交流を維持している成人継子 15 名へのインタビュー調査をもとに、子どもの立場から見たステップファミリーがうまく機能するための方法（「効果的な共同養育 effective coparenting」）を模索する。具体的には、子どもの適応状況が、離婚前後から再婚後への家族トランジションの過程で、父・母・継親それぞれのどのような配慮的行動や役割行動に影響されているのかを事例から明らかにし、支援実践へのヒントを提供したい。

ステップファミリーに関わる法制度と家族観
ーカナダと日本の比較検討ー

ローツ マイア（東北大学）

14:30～15:10

【報告要旨】

2024 年の民法等一部を改正する法律により、子どもとの交流（旧：面会交流）を求めることのできる人の範囲が、父母以外の親族にまで拡大された。子どもから見ても、「家族」・「大事な人」とは誰かにつき、法律が以前より柔軟に理解・対応するようになったと言える。なお、子と養子縁組をしていない元継親は、子との交流を請求できる者には含まれない。しかし、継子とその実親と同居していた際に、実際に継子の養育やしつけにかかわり、「親」のような役割を果たしてきた継親も、存在する。個別具体的な継親子関係の実態のいかに問わず、継子（とその実親）と離別後、継親にその元継子に対し、何の権利義務も残らないと

する制度設計でいいのか。

本報告では、以上のような問題意識をもって、特に、（養子縁組がされなかった場合の）継親とその（元）継子との（面会）交流請求、及び、（元）継子に対する養育費の支払義務につき、検討する。まず、以前から、個別の継親子関係の実態を重視し、（元）継親子間の権利義務を比較的柔軟に承認してきたカナダ法のアプローチを紹介する。次に、カナダと日本の法制度の比較を通して、日本法上のいくつかの検討すべき課題を明確にし、カナダ法におけるアプローチに照らして、今後の日本の制度のあり方につき、検討する。

ディスカッション

15：20～16：20

会員企画ラウンドテーブル I

9月28日 10:00–11:30

会場 552教室

事例検討－変わり続ける家族関係を踏まえた、ステップファミリーの親子交流支援と心理支援のあり方を考える－

- 企画者 | 緒倉珠巳 (SAJ ステップファミリー・アソシエーション・オブ・ジャパン)、小林佳代 (共に咲く花の会)、山崎祥子 (FPIC 盛岡ファミリー相談室)
- 司会 | 山崎祥子 (FPIC 盛岡ファミリー相談室)
- 話題提供者 | 渡邊祥子 (にじいろ面会交流支援、東京弁護士会)
- 話題提供者 | 小林佳代 (共に咲く花の会)
- 話題提供者 | 緒倉珠巳 (SAJ ステップファミリー・アソシエーション・オブ・ジャパン)

親の交際や再婚などにより、家族が変化を迎えるとき、親子交流に関わる家族や支援者も、新たな課題に直面する。その状況において、支援者はどのような理論に基づいて家族を理解し、どのような心構えで、何に留意して家族を支援していくのか。本ラウンドテーブルでは、親の再婚・再々婚を体験する高葛藤のステップファミリーのケースを通して、ケースの多面的な理解を深め、実践現場における方策について意見交換を行いたい。

研究発表

9月28日 12:30-13:30/13:40-14:40

1 | 会場 553教室 司会：田高誠（神戸家庭裁判所）

12:30-13:00

① 共同監護を原則とする米州法を適用した国内事例からの気づき

岩城尚子（大正大学大学院、東京弁護士会）

日本の裁判所で米州法が適用され共同監護が命じられた事例で、在野の実務家が直面した現実的な課題と気づきについて、日本の家事事件手続きや裁判における子の監護権者の判断手法に着目して報告をする。現行法下の事例ではあるが、離婚後の共同親権や特に子の監護権を分掌する父母のケースへの参考となる可能性がある。

13:00-13:30

② 親の別居・離婚を経験する子どもへのインタビューの報告

小田切紀子（東京国際大学）

ADR(裁判外紛争解決手続)のプロセスにおいて、子どもインタビューを実施し、子どもに現在の家庭状況をどのように受け止めているのかなどを尋ね、子どもの気持ちや意向を親に伝え、親が納得できたこと・できなかったこと、驚いたことなどを聞いた。子どもの気持ちやそれに対する親の発言から、子どもインタビューの意義と課題について報告する。

13:40-14:10

③ 父母の紛争における「子どもの手続代理人」の支援プロセスに関する質的調査研究

ー利用者と弁護士へのインタビュー調査を通じてー

松宮徹郎（大正大学大学院、東京弁護士会）

離婚後の共同親権制度の導入が決まり、これに関連して、父母の紛争において、いかにして子どもの意見表明を保障するかが注目されている。本研究では、子の意見表明を弁護士がサポートする「子どもの手続代理人」制度を利用した子どもとその代理人として活動した弁護士に、それぞれ半構造化面接を行い、その支援プロセスを明らかにし、支援を行ううえで有益な視点を得ることを目的とする。

14:10-14:40

④ 離婚後の子育てアプリ raeru（ラエル）の紹介と家裁実務における活用可能性

境領太（GUGEN Software 株式会社）、坂井義宏（大阪家庭裁判所堺支部）

離婚後の子育て支援アプリ「raeru（ラエル）」は、親子交流や養育費等の離婚後の父母のやり取りを支援するツールとして、月平均約 400 人が新規に登録、累計では約 1 万人となって、家庭裁判所での利用事例が増えている。本発表では、①開発経緯、②主な機能、③利用者アンケート結果の紹介、④支援団体・自治体との連携、⑤家裁での活用の現状、⑥令和 6 年 5 月の家族法改正（親の責務や試行的親子交流の明文化等）に伴う家裁実務における活用可能性、について報告・考察を行う。

12:30–13:00

⑤ ステップファミリーにおける面会交流

久保原大（東京都立大学）

ステップファミリーにおける面会交流の実施状況を、ステップファミリー形成時の継子に対する関係形成のためのアプローチの有無、その際のパートナーの協力の有無、そして、同居していない継子の実親について何か考えたことがあるかどうかとの関連から検討した。

13:00–13:30

⑥ 子どもにとってのステップファミリー：親との離死別と小児期逆境体験の視点から

福丸由佳（白梅学園大学）、大西真美（杏林大学）、大瀧玲子（東京大学）、
曾山いづみ（神戸女子大学）、山田哲子（立教大学）

子ども時代に親との離別や死別、親の再婚を経験した20代～30代前半の成人を対象に、ステップファミリーで育った体験について調査を行った。その結果、親との死別体験を経た子どもにおいて、逆境的小児期体験の得点が高いことが示され、離別だけでなく死別体験を経てステップファミリーで育つ子どもに対する丁寧な検討とそれに基づくサポートが必要であることが示唆された。また、家族関係にとどまらず、学校や園の先生などの存在についても検討を行った。

13:40–14:10

⑦ 家族内で暴力がある事例における離別後の親子関係に関する検討

曾山いづみ（神戸女子大学）、小川洋子（日本女子大学）、高田恭子（広島大学）

未成年期に親の離婚を経験した18歳～30歳未満の方10名を対象にインタビュー調査を行った。そのうち離別前に家庭内で暴力があり、離別後に暴力をふるった側の親と何らかの交流があった女性5名に焦点を当て、発表する。離別前の暴力の状況、離別後の交流頻度・内容とその後の様子について検討し、家庭内で暴力があった場合のその後の面会（親子）交流の在り方について考察する。

14:10–14:40

⑧ 親の離婚について語ること－青年期向けFAITプログラムの実践から－

大西真美（杏林大学）、曾山いづみ（神戸女子大学）、山田哲子（立教大学）、
福丸由佳（白梅学園大学）、大瀧玲子（東京大学）

本研究では、親の離婚を経験している青年期を対象にFAITプログラムをベースとした試行実践を行い、参加者のフィードバックを得て、プログラムの構成（内容、実践形態、参加人数、テキスト等）について検討し、より日本の文化社会背景に沿ったプログラムを開発することを目的とする。また青年期を対象に実践する意義と課題について考察する。

会員企画ラウンドテーブルⅡ

9月28日 15:00–16:30

会場 552教室

高葛藤（high conflict）離婚事例への支援・介入プログラムの適用可能性に関する検討③

企画者 | 曾山いづみ（神戸女子大学）
話題提供者 | 曾山いづみ（神戸女子大学）
話題提供者 | 高田恭子（広島大学）
話題提供者 | 福丸由佳（白梅学園大学）
指定討論者 | 山崎祥子（FPIC 盛岡ファミリー相談室）

2023年度・2024年度のラウンドテーブルに続いての企画である。今年度は日本における高葛藤の特徴と支援体制の構築における課題に焦点を当てる。支援者・専門家へのインタビュー調査から見てきた日本の特徴と課題（曾山）、法学の視点からみた日本の特徴と課題（高田）、トラウマインフォームドケアの観点から高葛藤事例を検討する必要性（福丸）について話題提供を行い、今後の日本における支援の課題について議論する。

浅倉むつ子・二宮周平・三成美保 責任編集

2024. 11 刊行

ジェンダー法研究 第11号

定価:本体4,000円(税別) ISBN:9784797268515 232頁

【目次】

◆特集1 日本のジェンダーギャップ指数はなぜ低いのか?—各学問分野による分析◆

- ◆1 世界経済フォーラム「グローバル・ジェンダー・ギャップ指数」(GGGI)の意義と限界—GGGIレポート2024の総合スコアを中心に〔三成美保〕
- ◆2 政治分野における男女共同参画への課題〔大山礼子〕
- ◆3 経済分野における日本のジェンダー平等指数はなぜ低いのか〔川口 章・野田混登〕
- ◆4 教育のランキングから見えること、見えないこと—ジェンダーギャップ指数を手がかりに〔小玉亮子〕
- ◆5 健康分野におけるジェンダー・ギャップ指数—性と生殖の健康と権利(SRHR)を中心に〔白井千晶〕

◆特集2 トランスジェンダーの尊厳◆

- はじめに 二宮周平
- ◆6 性同一性障害者特例法生殖不能要件最高裁違憲決定について—平成31年最高裁決定から令和5年最高裁決定へ〔大山知康〕

- ◆7 性別変更のその向こう—男女二元性の世界から人間性を統合していく時代に!〔臼井崇来人〕
- ◆8 経産省事件—当事者に対する処遇の適切さを求めた最高裁判決の意義と課題〔永野 靖〕
- ◆9 トランスジェンダー裁判例から見るジェンダー規範—「パス度」が法的権利を左右すべきか〔石橋達成〕
- ◆10 特例法違憲決定後のトランスジェンダーの親子法—法的課題の素描と改正に向けた試論〔立石結夏〕
- ◆11 性自認に応じた法律上の性別の可能性〔渡邊泰彦〕
- ◆12 買春の可罰化に向けて—イマドキオナノコの風俗事情〔大谷恭子〕(遺稿)
- ◆13 女性差別撤廃委員会は、性売買をどうとらえているか〔浅倉むつ子〕

【立法・司法・行政の新動向】

〔概説および翻訳〕EU:男女同一賃金原則の適用強化に関する指令(Directive 2023/970)〔黒岩容子〕

尊厳の平等という未来へ

浅倉むつ子 著

2025. 4 刊行

(東京都立大学名誉教授、早稲田大学名誉教授)

◆個人の尊厳が保障される社会を求めて — 長く労働法学、ジェンダー法学を牽引してきた著者による、650 ページを超える大著

民主主義の弱体化、武力紛争やデジタル技術を用いた権利侵害や女性への暴力が、いま全世界に広がっている中で、これらに抗するジェンダー平等社会に必要なものは何か。未来への願いをこめた著者からの熱き提言。

【本書の主要目次】

- ◆第1章 包括的差別禁止法制と複合差別／◆第2章 均等法をめぐる攻防／◆第3章 男女賃金差別の是正・解消／◆第4章 ジェンダー視点による「働き方改革」批判／◆第5章 コロナ禍と労働法／◆第6章 男女共同参画条例／◆第7章 女性差別撤廃条約の実効性／◆第8章 ジェンダー主流化をめざす／◆第9章 判例を契機に考える／◆第10章 ハラスメントの防止と撤廃／◆第11章 研究・教育・学術



信山社

<http://www.shinshansha.co.jp>

家庭の法と裁判 57

2025年8月刊

定価1,980円

FAMILY COURT JOURNAL

特集 改正家族法における「子の利益」

- 近時の民法改正から振り返る「子の利益」—令和6年民法改正を中心に
石綿はる美 (一橋大学大学院法学研究科准教授)
- 子の監護・引渡しをめぐる紛争における「子の利益」の考慮
砂古剛 (名古屋地方裁判所判事 (元東京家庭裁判所判事))
- 心理学の視点からみた「子の利益」 直原康光 (大阪大学大学院人間科学研究科講師)
- 弁護士実務における「子の利益」 浜田真樹 (弁護士)
- 令和6年「民法等の一部を改正する法律」の施行準備の状況について
太田章子 (法務省民事局参事官) / 倉重龍輔 (法務省民事局民事法制企画官)
今村謙介 (法務省民事局付) / 上田博章 (法務省民事局付)

解説

- 「民法(成年後見等関係)等の改正に関する中間試案」の取りまとめについて
- 民法等の一部を改正する法律(父母の離婚後等の子の養育に関する見直し)に関する「Q&A形式の解説資料(民法編)」について

【予告】

特別企画 改正家族法の要点と解説

東京改正家族法研究会

58号から3号にわたり、特別企画を掲載予定です。

【近刊案内】

Q&A 離婚後の法律実務(仮)

白井可菜子・中村剛・北周士・武内優宏 著



日本加除出版

(価格は税込)

〒171-8516 東京都豊島区南長崎3丁目16番6号
営業部 TEL(03)3953-5642 FAX(03)3953-2061
www.kajo.co.jp X(旧Twitter):@nihonkajo

こちらからも
ご注文
いただけます



◆社会福祉研究叢書

認知症のある人への 経済支援

竹本与志人【著】

◎介護支援専門員への期待

●4950円

障害者ジェンダー統計の 可能性

吉田仁美【著】

◎実態の可視化と課題の実証的解明をめざして ●5940円

ソーシャルアクション・ モデルの形成過程

小沼聖治【著】

◎精神保健福祉士の実践を可視化する

●4400円

ケアの脱家族化

塩満 卓【著】

◎統合失調症者と親双方の自律を支援する
ソーシャルワーク

●6380円

◆シリーズ〈家族〉のかたちを考える

比較家族史学会【監修】

〈産みの親〉と 〈育ての親〉

床谷文雄・宇野文重・梅澤 彩・柴田賢一【編】

社会のあり方と密接にかかわる〈病い〉という視座から、近世から現代までにわたって〈病い〉が家族にもたらしてきた変容の諸相を捉える。課題を考察していくなかで「家族」そのものに対する知見を深める。

●5500円

家族と病い

田間泰子・土屋 敦【編】

危機的妊娠や予期しない妊娠によって生まれた子をめぐる現状・課題を踏まえ、〈親〉という存在がいかなる文脈で捉えられるのかを論究。歴史的事例を素材に行方体の多様性や厳しい「まなざし」・倫理観を問い直す。

●5940円



法律文化社

〒603-8053 京都市北区上賀茂岩ヶ垣内町71

<https://www.hou-bun.com/>

TEL 075 (791) 7131

FAX 075 (721) 8400

e-mail: eigyo@hou-bun.co.jp

*価格は税込

協賛企業（50音順）

信山社・日本加除出版・法律文化社

企画委員会

村尾泰弘（立正大学）・原田綾子（名古屋大学）

山崎祥子（FPIC 盛岡ファミリー相談室）・田高 誠（神戸家庭裁判所）

野沢慎司（明治学院大学）・松久和彦（近畿大学）

渡邊祥子（東京弁護士会）

日本離婚・再婚家族と子ども研究学会第8回大会実行委員会

実行委員長 青木 聡（大正大学）

実行副委員長 大西真美（杏林大学）

実行委員 緒倉珠巳

（SAJ ステップファミリー・アソシエーション・オブ・ジャパン）

大瀧玲子（東京大学）

綿谷 翔（株式会社こはく社）

山田哲子（立教大学）

2025年8月21日 第1版